

---

## 簡易経絡測定装置（E－BI2）説明書

作 成 者	経絡測定研究会
作 成 日	2016 年 12 月 16 日
最終更新日	2017 年 1 月 6 日

## 目次

簡易経絡測定装置(E-BI2)説明書.....	1
目次 .....	2
システム構成 .....	3
機器・用品一覧 .....	3
読取装置 .....	3
USB絶縁アダプター .....	3
不関電極(手首用) .....	4
不関電極(足首用) .....	4
ゲル剤・ゲルシート .....	4
添付ソフト .....	5
簡易経絡測定装置(E-BI2)システム .....	5
PicoScope 社 ソフトウェア .....	5
利用可能なパソコン(PC) .....	6
ソフトのインストール .....	6
簡易経絡測定(E-BI2)システム .....	6
オシロスコープ用ソフトのインストール .....	7
簡易経絡測定(E-BI2)システム プログラム解説 .....	8
メインメニュー .....	8
測定 .....	8
表示印刷 .....	15
履歴 .....	21
メニューバーの処理 .....	23
測定準備 .....	27
電源 .....	27
椅子とテーブル .....	27
機器接続 .....	28
不関電極の装着 .....	29
関電極のセット .....	30
測定 .....	31
プログラムの実行 .....	31
ご注意 .....	32

## システム構成

### 機器・用品一覧



図-1

### 読取装置



図 2

井穴に小電圧(3V 単パルス)をかけて電流測定する装置です。  
関電極と一体化しています。  
Pico Technology 社オシロスコープ本体に制御回路を付加して  
構成しています。



図 3

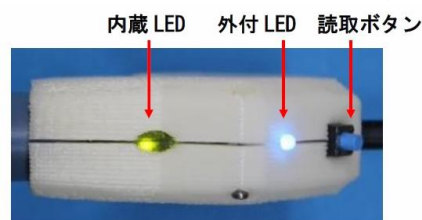


図 4

### USB 絶縁アダプター



PC 経由の漏れ電流やノイズ混入防止する装置です。  
(旧「AC 電源絶縁アダプター」に相当)

図 5  
(図 6 欠番)

## 不関電極（手首用）



図 7



図 8

不関電極は、手または足に装着します。  
1 回の全井穴測定を通して、手か足かの一方に固定します。

## 不関電極（足首用）



図 9



図 10

## ゲル剤・ゲルシート



不関電極の金属面に塗布するゲル剤です。

図 11

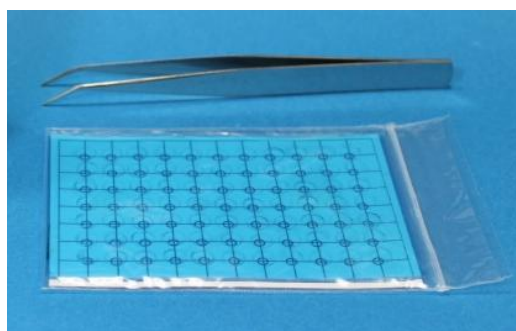


図 12

関電極に張り付けるゲルシートです。  
直径 6 mm の円形片をピンセットで剥がして、関電極の金属面に貼り付けます。

## 添付ソフト

### 簡易経絡測定装置（E-BI2）システム



図 13

E-AMI 経絡測定システムプログラムです。

メインフォルダー

¥E-BI2¥

E-BI2.EXE … 簡易経絡測定 (E-BI) システム  
 E-BI2.INI  
 ARAGOWQS.DLL  
 ARGEXT.DLL  
 ARGIMM32.DLL  
 ARGMC132.DLL  
 ARGNET32.DLL  
 ARGRUN.DLL  
 ARGUT16.DLL  
 ARGUT32.DLL  
 USBCHECK.DLL…PS2105 接続チェックプログラム  
 PS2105AD.DLL … PS2105 制御プログラム

サブフォルダー

¥固定¥

alert.jpg  
 BEEP\_H.wav  
 BEEP\_L.wav  
 CALC.STRU  
 chimes.wav  
 desktop.ini  
 PS\_LED①②.jpg  
 RETRY.WAV  
 USB 接続.jpg  
 上半身前面.jpg  
 上半身背面.jpg  
 井穴 24.DBF  
 井穴 245.jpg  
 井穴 245 逆.jpg  
 井穴名 6.DBF  
 井穴手足 YX.DBF  
 手平.jpg  
 手甲.jpg  
 経絡と症状.DBF  
 経絡流注.DBF  
 経絡相関.STRU  
 虚実疾患.DBF  
 要穴図座標.DBF  
 設定 N.DBF  
 足.jpg  
 陰陽 6 経.DBF  
 陰陽 6 経.STRU  
 集計 12 経 N.STRU

¥Data¥

AMIDATA.DBF

¥DOC¥

E-BI2 説明書.pdf

### PicoScope 社 ソフトウェア

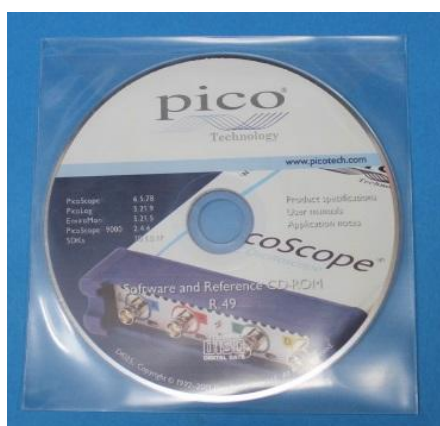


図 14

Pico Technology 社 オシロスコープ(PS-2105)の  
 添付 CD です。

autorun.inf  
 pico.exe  
 PicoAutomotiveCatalogue.pdf  
 PicoCatalogue.pdf  
 readme.txt

サブフォルダー

¥document¥

~内容省略~

¥fscommand¥

~内容省略~

¥software¥

~内容省略~

¥utilities¥

~内容省略~

## 利用可能なパソコン（PC）

WindowsXP／7／8.1 で動作確認しています(\*1)。Windows8.0 では、画面表示が乱れました。

Windows7 の中古品 PC を経絡測定専用利用するのも好都合だと思います。

USB ポートを使用します

モニタ画面は、1024×768ドット以上必要です。

添付ソフトは、複数台の PC にセットしてご利用戴けます。

PC 機器利用環境の問題で、本システムが使用できなかった場合は、返品してください。

\*1:Windows10 で使用しているというユーザの報告もあります。

## ソフトのインストール

### 簡易経絡測定（E-BI2）システム

インストールプログラムは、ありません。

CD-ROM 内の¥E-BI¥フォルダー全体をパソコンの任意ドライブにコピーしてください。

E-BI2.EXE がメインプログラムです。

（例えば、D:¥E-BI2¥のように転送した場合、D:¥E-BI2.EXE を起動します。）

操作しやすいように、デスクトップ上に E-BI.EXE のショートカットを作成しておくといでしょう。

（ショートカットは、¥E-BI2¥フォルダーを開く → E-BI2.EXE を右クリックしながら→ デスクトップ → 指を離す → 「ショートカットをここに作成する」という操作でできます。）



## オシロスコープ用ソフトのインストール

読取装置(PicoScope)は接続していない状態で、CD 内の pico.exe を実行してください。  
通常、CD-ROM をドライブに挿入すると、操作ガイド画面が表示されます。

①

pico.exe を起動すると、次の画面が表示されます。



図 15

②



図 16

「Install Software」

「English」選択

③

この後、ガイダンス画面表示に従って、次のように操作してください。

- 「Install PicoScape and PicoLog」
- 「Install PicoScape 6」
- 「日本語」
- [v]使用許諾契約の条項に同意します。
- 

④



図 17

デスクトップに PicoScope のアイコンが作成されます。

⑤オシロスコープソフトのインストール確認

(1)読取装置(PicoScope)の USB ケーブルを直接パソコンに差し込んでください。

(2)デスクトップの「PicoScope」をクリックしてください。

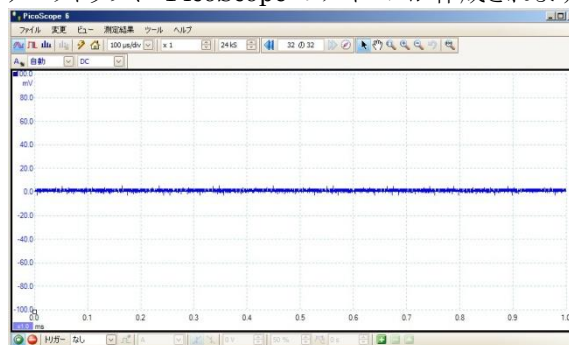


図 18

この画面が表示されれば OK です。

この画面は、装置使用環境のノイズの観測に利用できます。

## 簡易経絡測定（E-BI）システム プログラム解説

### メインメニュー



図 19

### 測定

#### 【測定】

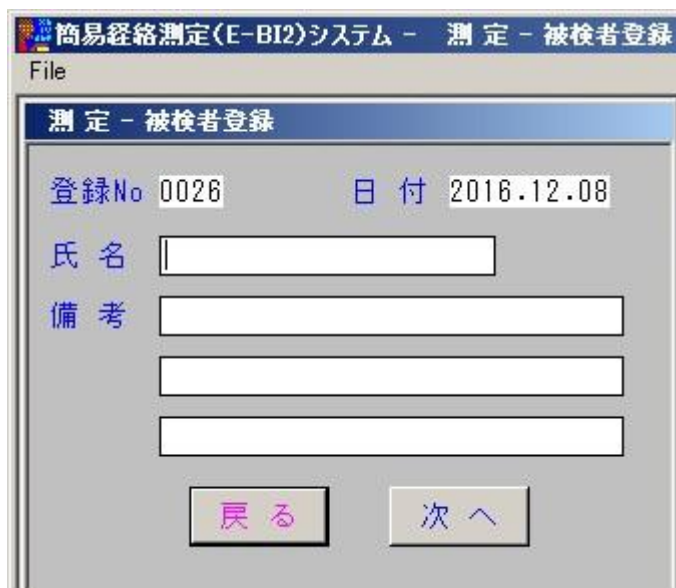


図 20

「氏名等」には、被検者に付与したコード番号と共に、登録しておくと便利です。  
例えば、「履歴表示」の際、被検者名がコード番号順に表示されるので、検索が容易になります。



【次へ】

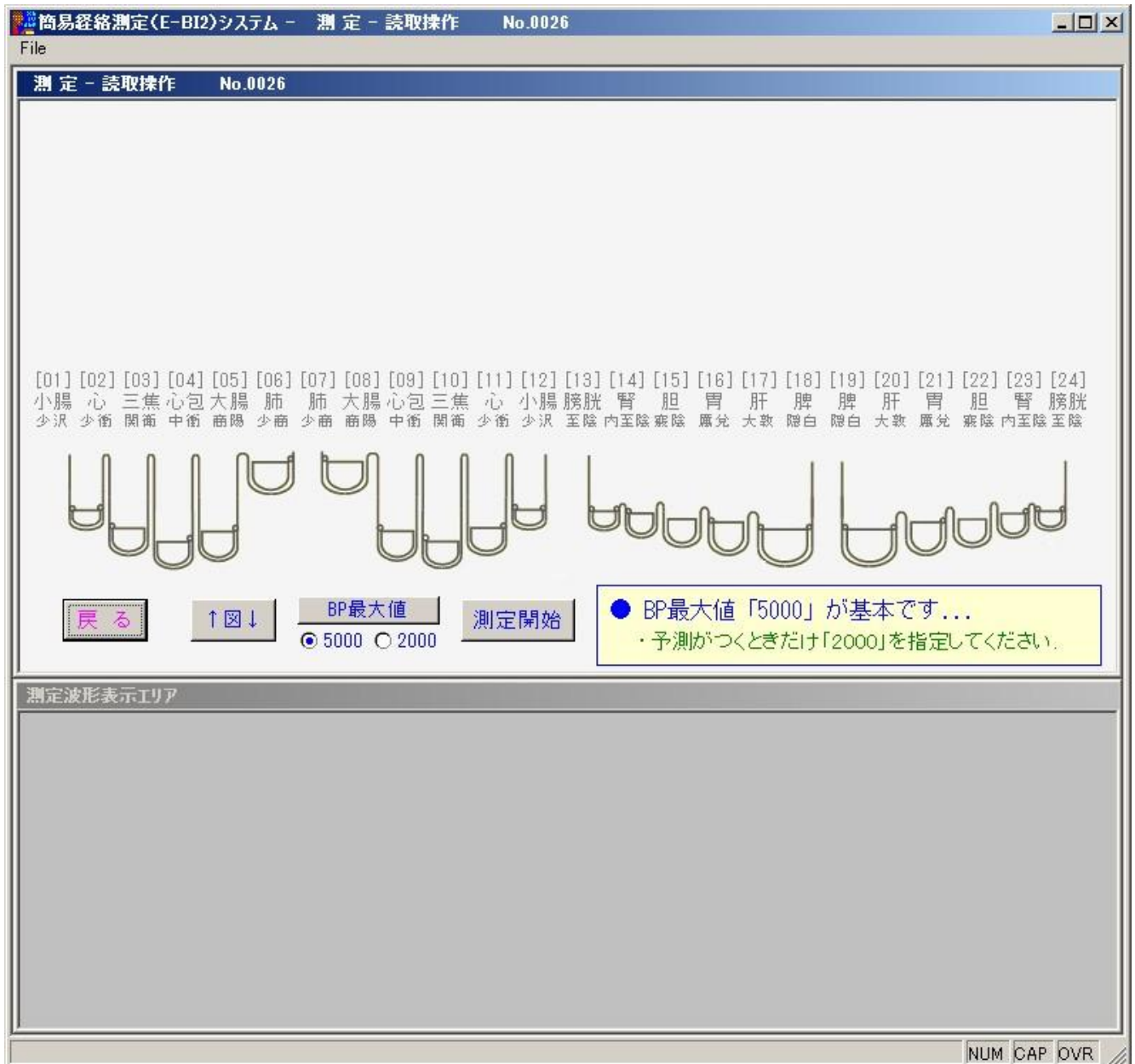


図 21

初期画面では、被検者の手足の指先画像が対面方向で表示されます。

【↑図↓】

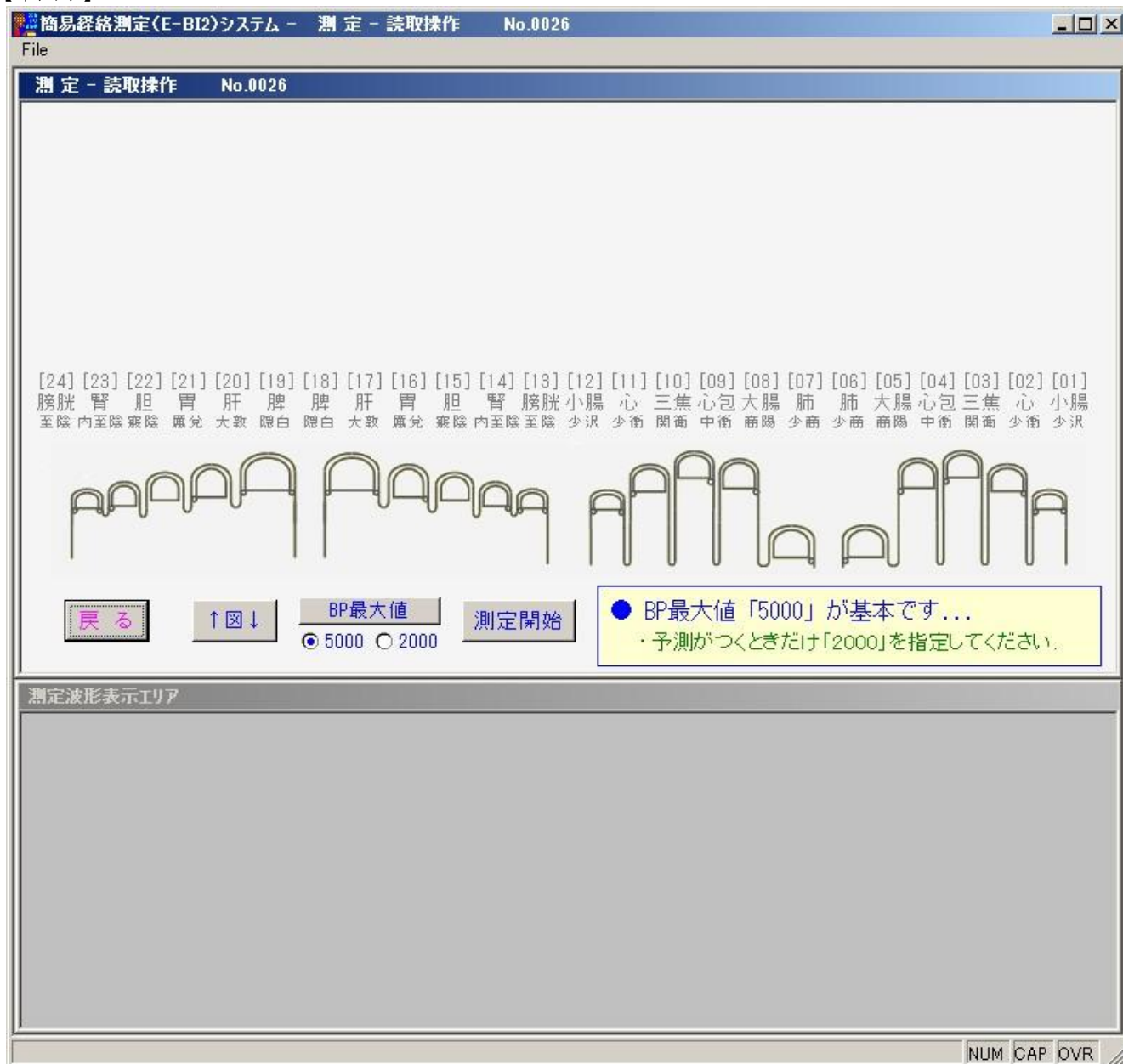


図 22

・「↑図↓」をクリックすることにより、手足画像の方向が反転します。  
自分自身を測定する際にご利用ください。

**BP最大値** これは、測定可能な BP 最大値の選択です。  
通常は「5000」( $\mu A$ )で測定を開始してください。  
もし、その被検者の測定値が井穴とも「2000」( $\mu A$ )以下と予想される場合は、「2000」を選択してください。

#### BP 最大値について

- ・本システムでは、アナログ電流値を 8bit (256 階調) でデジタル値に変換します。  
最大値「5000」のとき、1 階調 =  $5000/256 \approx 20 (\mu A)$ 、最大値「2000」のとき、1 階調 =  $2000/256 \approx 7.8 (\mu A)$  になります。したがって、最大値「2000」の方がグラフ化する際に電流変化をキメ細かく表示できることになります。
- ・最大値「5000」で測定作業を開始した後、井穴数ポイント測定した段階で、例えば、どの測定値も「1300」以下というように小さかった場合は、作業を中断して、最大値「2000」で測定をやり直すことをお勧めします。
- ・また、最大値が予想できない被検者の場合、画面の井穴指示どおり手から順番に測定するのではなく、手足の

数点をランダムに測定してみて、その被検者の最大値を予想してから、「5000」か「2000」かを決めて正式測定を開始するのも賢明な測定方法です。(手≪足、手≫足という人が多いため。)

#### [測定]

- ・「測定」をクリックすると、PicoScope 信号読取プログラムが起動します。
- 但し、パソコン—USB 絶縁アダプター読取装置が未接続のとき、次の画面が表示されます。

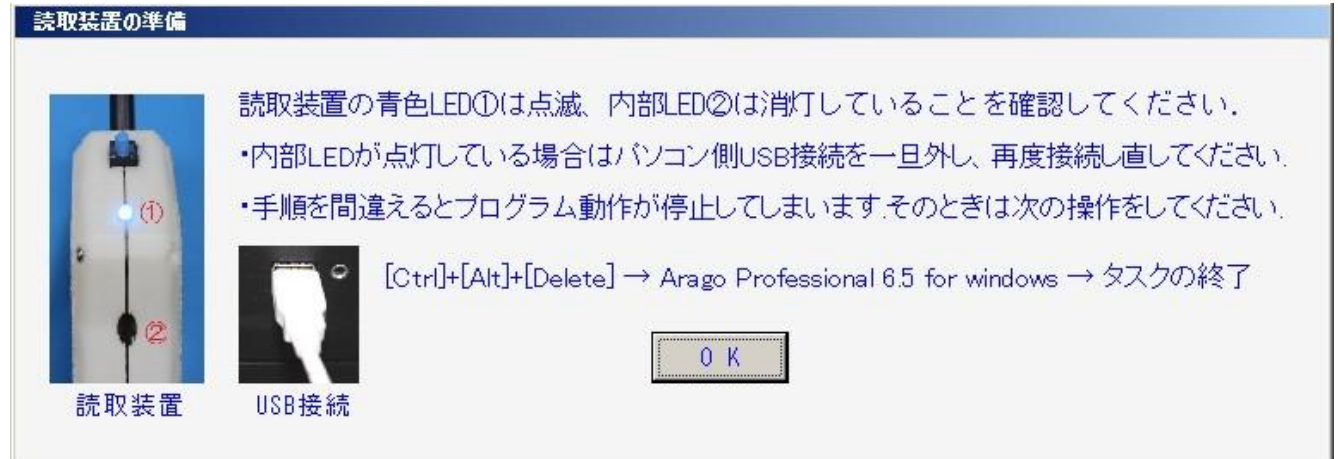


図 23

そして、次の測定開始になります。

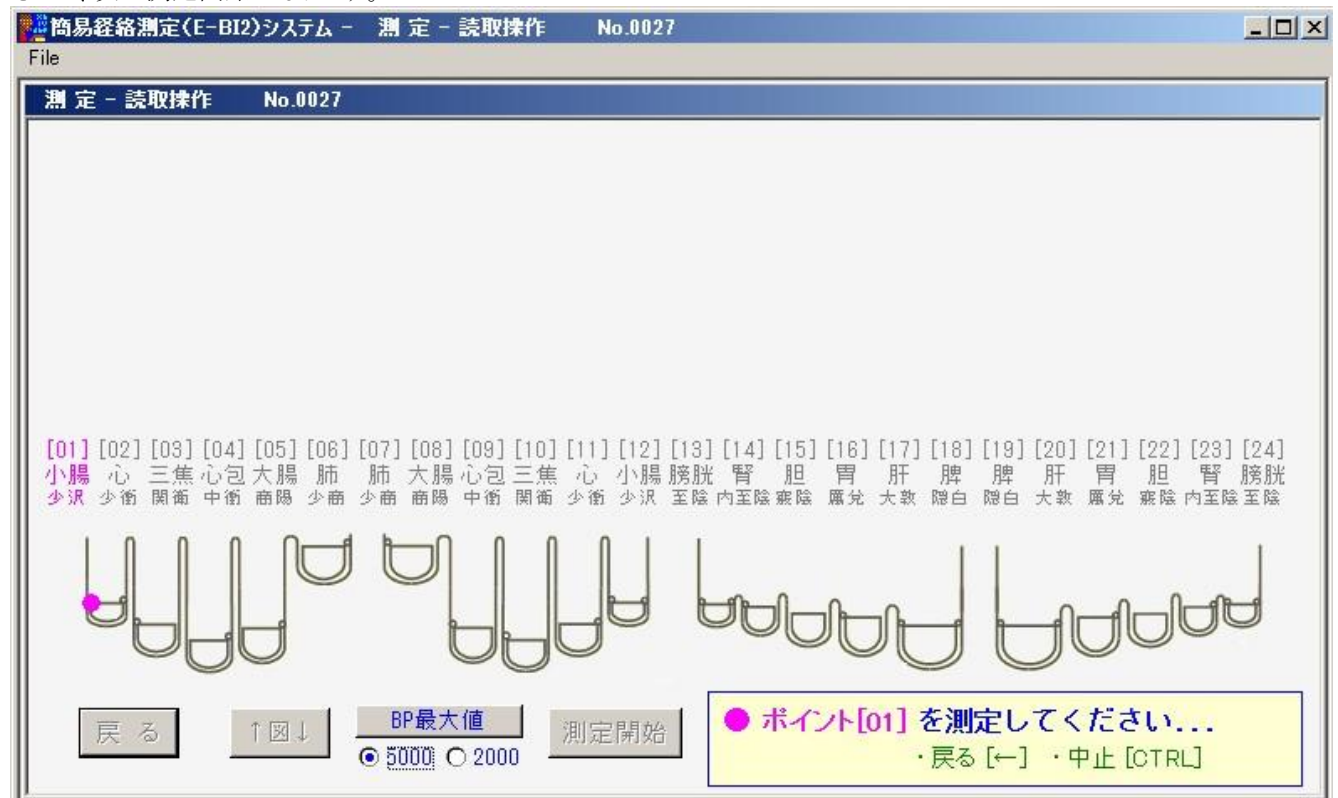


図 24

**パソコンがキー操作不能になった場合**

読取装置が動作中(図-23の②内蔵LEDが点灯)に「測定開始」とすると、パソコンソフトがフリーズします。そのときは、[Ctrl]+[Alt]+[Delete] → Arago Professional 6.5 for windows → タスクの終了という操作で、プログラムを強制終了してください。

測定作業は、この画面を確認しながら行います。

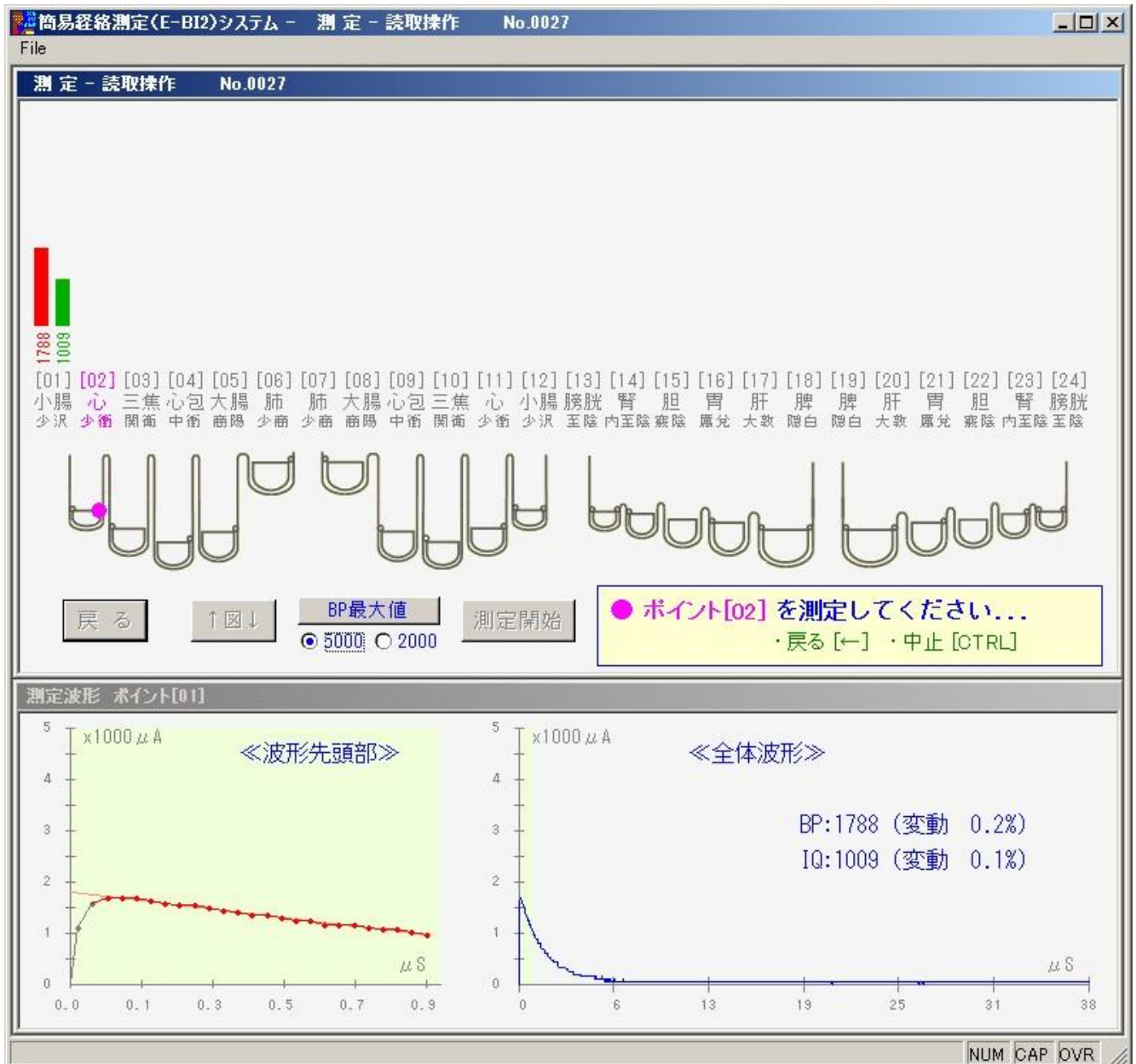


図 25

赤●で示す井穴に電極(読取装置の先端)を当てて、読み取りボタンを押します。すると、棒グラフと測定電流波形が表示されます。

BP 値と IQ 値の右側()内は、後述する 2 回測定の 1 回目と 2 回目の測定値変動率です。

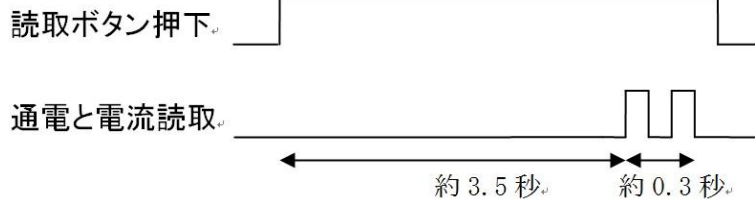
**波形表示は...**

上右図は電流値が一定係数で低下する通常波形ですが、該当経絡に大きな変動があると、迷走しながら低下することがあります。そういう診断の参考のために波形表示しています。



## 2 回測定について

読取装置の読取ボタンは、約 3.5 秒以上押し続けると、人体皮膚に 3V のパルス電圧が印加され、通電電流が波形が読み取られます。



この波形読取は、約 0.3 秒間隔で繰り返し 2 回実行されます。

そして、得られた 2 つの測定値の変化の仕方と両者の変動の大きさを元に測定値が正しいかどうか判定されます。例えば、機器内にノイズが混入した場合、測定値の波形がランダムになったり、2 つの測定値の変動幅が大きくなるので、異常と判定できます。

また、電極が井穴皮膚面に正しく密着していなかった場合、電流波形が皮膚通電の特徴的な変化をしないので、測定操作ミスと判定できます。

測定値が不正と判定された場合、測定エラーとして再測定することになります。

## [測定エラーと再測定]

測定エラーと判定された場合、このような表示で再測定を促します。

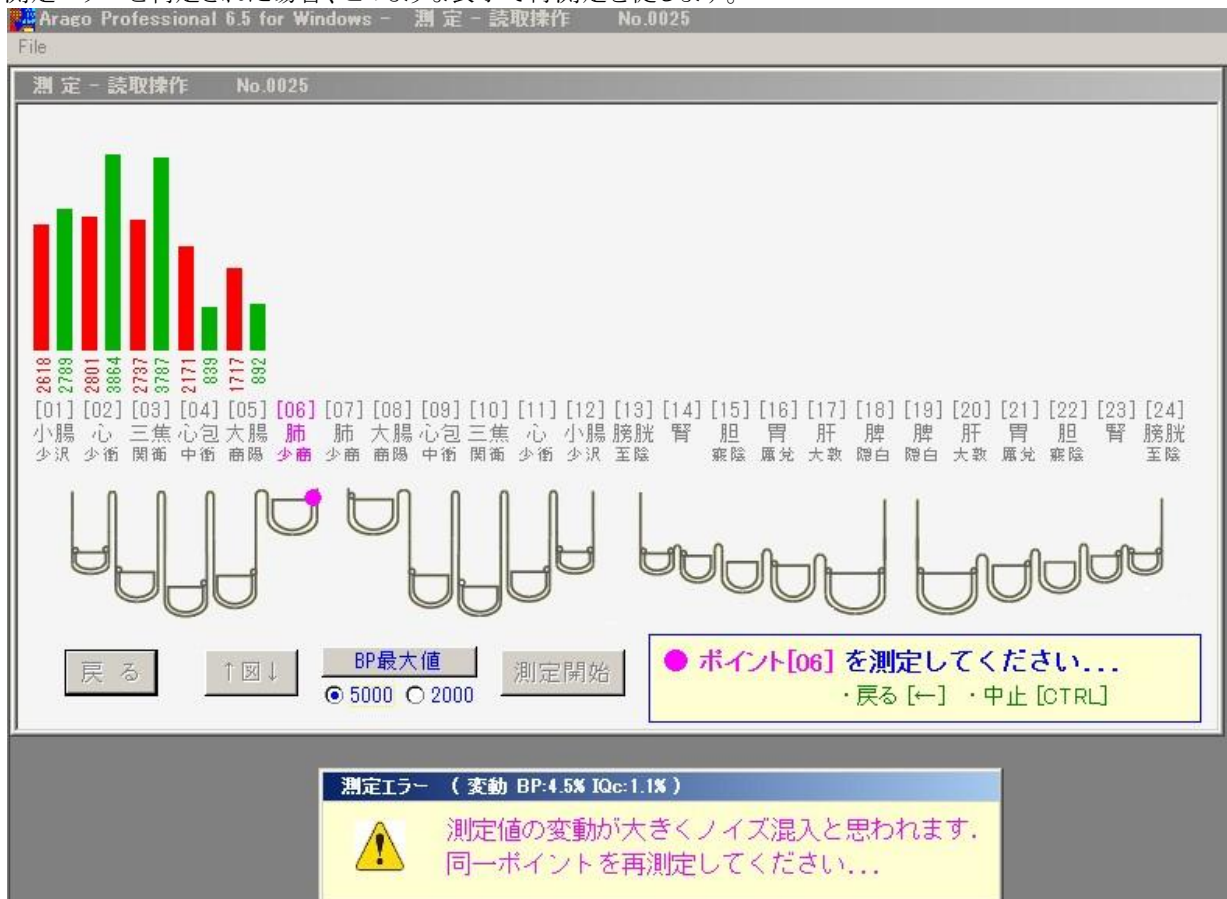


図 26

再測定メッセージには次のようなものがあります。

- ・「測定値の変動が大きくノイズ混入と思われます。」
- ・「data1.txt がありません。」… 以下、ソフト・ハードの何らかのトラブルの際に表示される場合があります。
- ・「通電ピーク値が所定範囲にありません。」
- ・「通電ピーク値が検知できません。」
- ・「DATA.DBF に MARK='\*'がありません。」
- ・「MV1\_AP レコードが検知できません。」

## ・中止 [CTRL]

処理を中止したいときは、[CTRL]キーを 2~3 秒押してください。「戻る」ボタンが有効になります。

## ・戻る [←]

・[←]キーを押すと、直前の井穴測定に戻ります。測定エラーでなくても、再測定できます。  
(実際には、「↑図↓」で画像反転している場合を考慮して、[←] でも[ → ]でも戻ります。)

井穴 24 点全て測定終了すると、この画面になります。

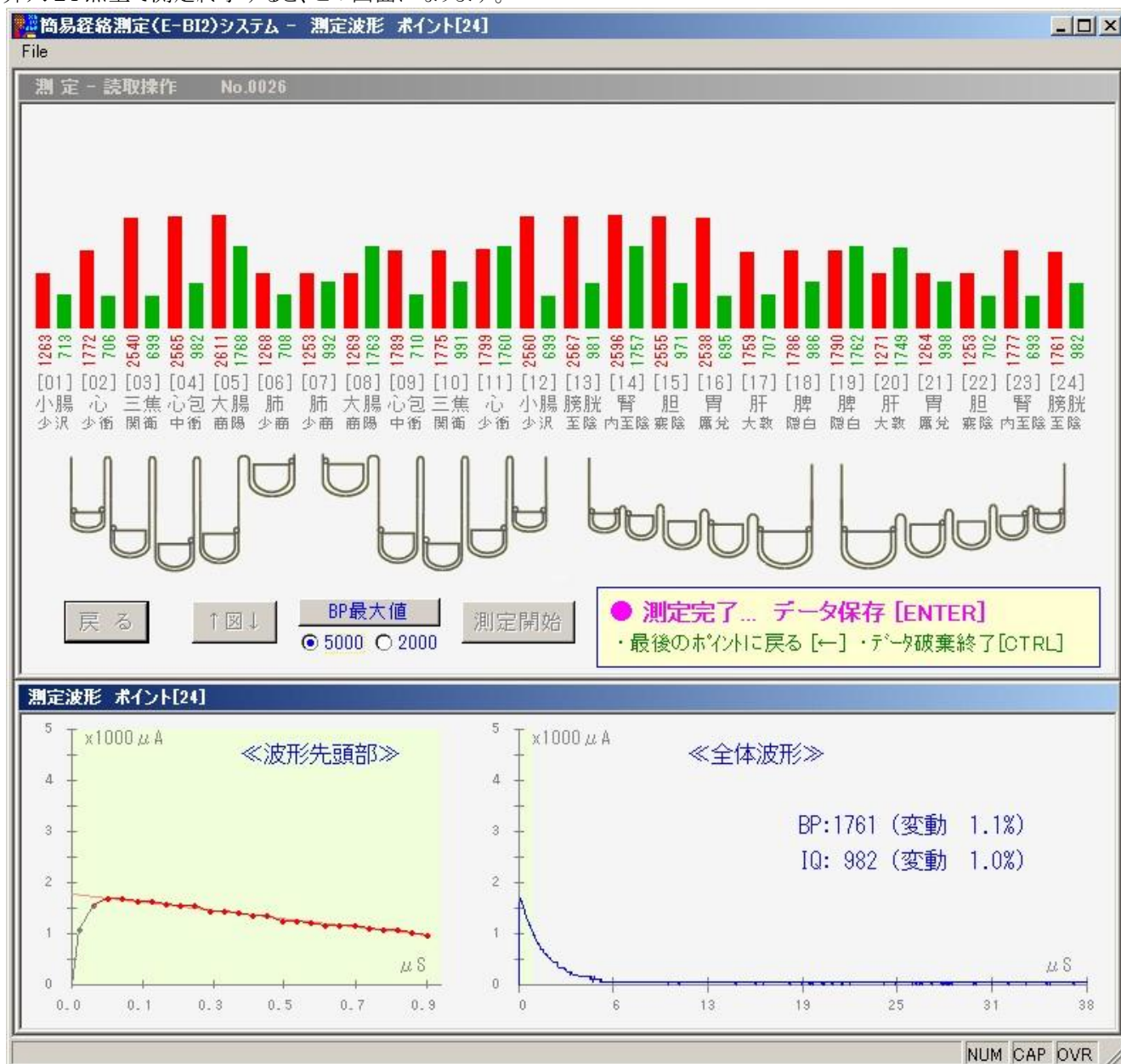


図 27

[ENTER]キーで測定データが登録されます。

● No.0027 測定データを保存しました.  
・「戻る」で画面を閉じてください...



## 表示印刷

簡易経絡測定(E-BD)システム - 測定結果表示印刷

File

測定結果表示印刷

番号	日付	氏名	備考1
0011	2014.10.17	001 ME	
0012	2014.10.18	003 TK	女・34
0013	2014.10.18	004 T.Y	女・40代
0014	2014.10.18	005 H	男・50代
0015	2014.10.19	006 M.M	女・37
0016	2014.10.19	007 A.I	男・43
0017	2014.10.19	008 M.A	女・40代
0018	2014.10.19	009 I.T	男・40代
0019	2014.10.19	010 K.Y	女・48
0020	2014.10.19	011 N.N	女・40代

☒ チャート    ☒ データ一覧       

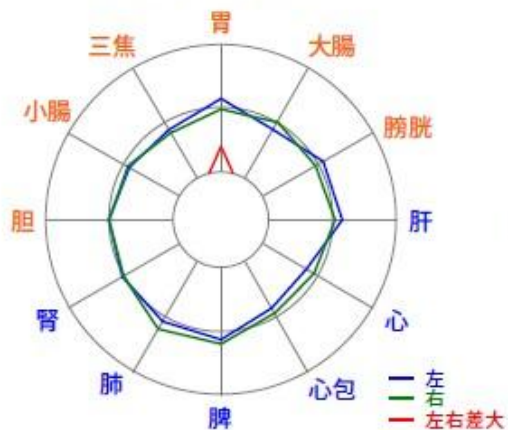
図 28

- ・被検者データと、出力する図表の種類を選択してください。

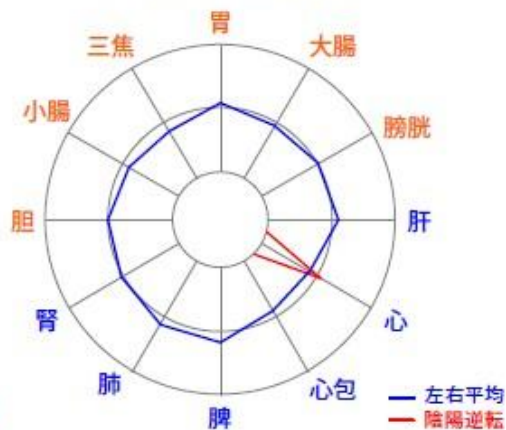
NO.0013 2014.10.18 004 T.Y 様

女・40代

--- BP 左・右・左右差 ---



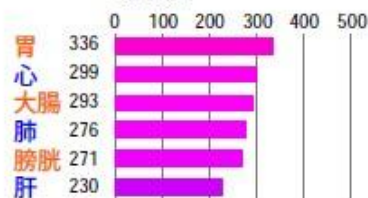
--- BP 左右平均・陰陽逆転 ---



---BP左右平均---



---左右差---



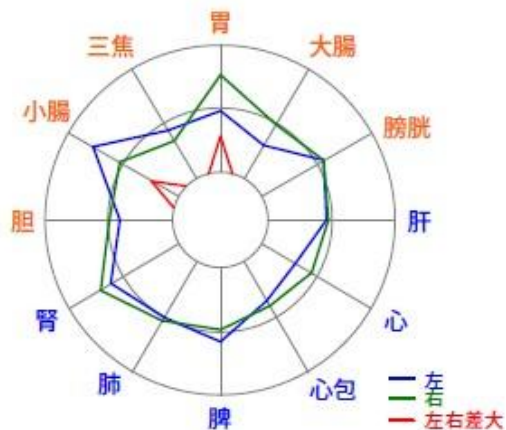
---陰陽逆転---



--- 気のバランス ---



--- IQ 左・右・左右差 ---



※当ページグラフ類の表記法は「東洋医学 気の流れの測定・診断と治療」(本山博著 宗教心理出版)の事例を参考にしています。

図 29

棒グラフ目盛の最大値、異常表示「>」の表記条件等は、「表示設定」画面(P.21/32)で設定します。

## 【データ一覧】

		左	右	差	平均	左%	右%	平均%	差%
① 肺	BP	2163	2439	276	2301	1.075	△1.212	1.143	1.493
	IQ	1497	1578	81	1538	1.005	1.060	1.032	0.250
② 大腸	BP	1769	2062	293	1916	0.879	1.024	0.952	1.585
	IQ	895	1446	551	1171	0.601	0.971	0.786	1.706
③ 心包	BP	1697	1887	190	1792	0.843	0.938	0.890	1.028
	IQ	1071	1185	114	1128	0.719	0.796	0.757	0.353
④ 三焦	BP	1748	1651	97	1700	0.868	0.820	0.844	0.524
	IQ	1307	1031	276	1169	0.877	0.692	0.785	0.854
⑤ 心	BP	1583	1882	299	1733	0.786	0.935	0.861	1.617
	IQ	881	1346	465	1114	0.591	0.904	0.748	1.440
⑥ 小腸	BP	1815	1864	49	1840	0.902	0.926	0.914	0.265
	IQ	2299	1590	709	1945	1.544	1.068	1.306	2.195
⑦ 脾	BP	2279	2386	107	2333	1.132	1.186	1.159	0.578
	IQ	1703	1442	261	1573	1.143	0.968	1.056	0.808
⑧ 肝	BP	2334	2104	230	2219	1.160	1.045	1.102	1.244
	IQ	1373	1411	38	1392	0.922	0.947	0.934	0.117
⑨ 胃	BP	2334	1998	336	2166	1.160	0.993	1.076	◇1.817
	IQ	1449	2260	811	1855	0.973	1.518	1.245	2.511
⑩ 胆	BP	2022	2012	10	2017	1.005	1.000	1.002	0.054
	IQ	1228	1478	250	1353	0.824	0.992	0.908	0.774
⑪ 腎	BP	2104	2044	60	2074	1.045	1.016	1.030	0.324
	IQ	1819	2127	308	1973	1.221	1.428	1.325	0.953
⑫ 膀胱	BP	2189	1918	271	2054	1.088	0.953	1.020	1.466
	IQ	1662	1651	11	1657	1.116	1.109	1.112	0.034

## 【BP陰陽差】

肺－大腸	385
心包－三焦	92
心－小腸 □	-107
脾－胃	167
肝－胆	202
腎－膀胱	20

## 【平均】

BP	2011
IQ	1488

## 【手/足】

BP	0.877
IQ	0.823

## 【診断】

△	BP高(実)
▽	BP低(虚)
◇	左右差大(不安定)
□	陰陽値逆転(変調)
↑	興奮(変調初期)
↓	沈静(慢性化)

## 【標準偏差】

BP	0.116
IQ	0.246

## 【左/右】

BP	0.991
IQ	0.927

## 【ポイント解説】

	BP	IQ
経絡別	虚実の指標	—
左右差	該当経絡の変調。多くは一時的なもの。	—
陰陽差 逆転「□」	該当経絡の変調。恒常的で多くの場合、発症を自覚している。	—
平均	気(生命エネルギー)の充実度。 若年>老年・虚弱者。健康者>病人。	免疫・生体恒常性維持機能の活性度。 発症初期・炎症中・アレルギー体質者>慢性化・機能低下。
標準偏差	発病初期など免疫反応が活発なとき大きくなる。 測定操作が乱雑なときにもバラツキのため大きくなる。	同左。 BPの場合よりも長期間かけて変化する。
手/足	1が理想値。	1が理想値。
左/右	1が理想値。	1が理想値。

※上記「診断」は「経絡-臓器機能測定について」(本山博著 宗教心理出版)の「各経絡-臓器の機能興奮、低下、不安定を決める基準」に準拠しています。「ポイント解説」は、同氏の多数の著書の中の説明文を引用したものです。語句変更したところもあります。

## 【経絡の変調と症状の研究】

「経絡の変調と症状」の分析表作成

0013 2014.10.18 004 T.Y 様

次の経絡変調に対する分析表を作成します。

☒ 陰陽逆転
 ☒ 「実」
 ☒ 「虚」
 ☒ 不安定(左右大)

图 31

[illegible]

※本表の経絡と症状の情報は、表記見本として「経絡-臓器機能測定について」等(本山博 著 宗教心理出版)の記事を引用しています。  
この情報は、ユーザ自身が「経絡と症状の鑑別」画面で変更追加削除できます。印刷配布する場合はご自分の簿機で書き換えてください。

图 32



【鍼灸取穴参考図】



例えば、脾経への刺激は、相生関係で肺経をより実にし、逆転経絡の心経を刺激すると、今度は脾経がさらに実になる可能性があるということが分かります。

### 【主要穴虚实反映图】



各種記号★★◇□の経穴と皮膚上の反応点等とを照合することも、診断に役立ちます。

## 【要穴位置図】

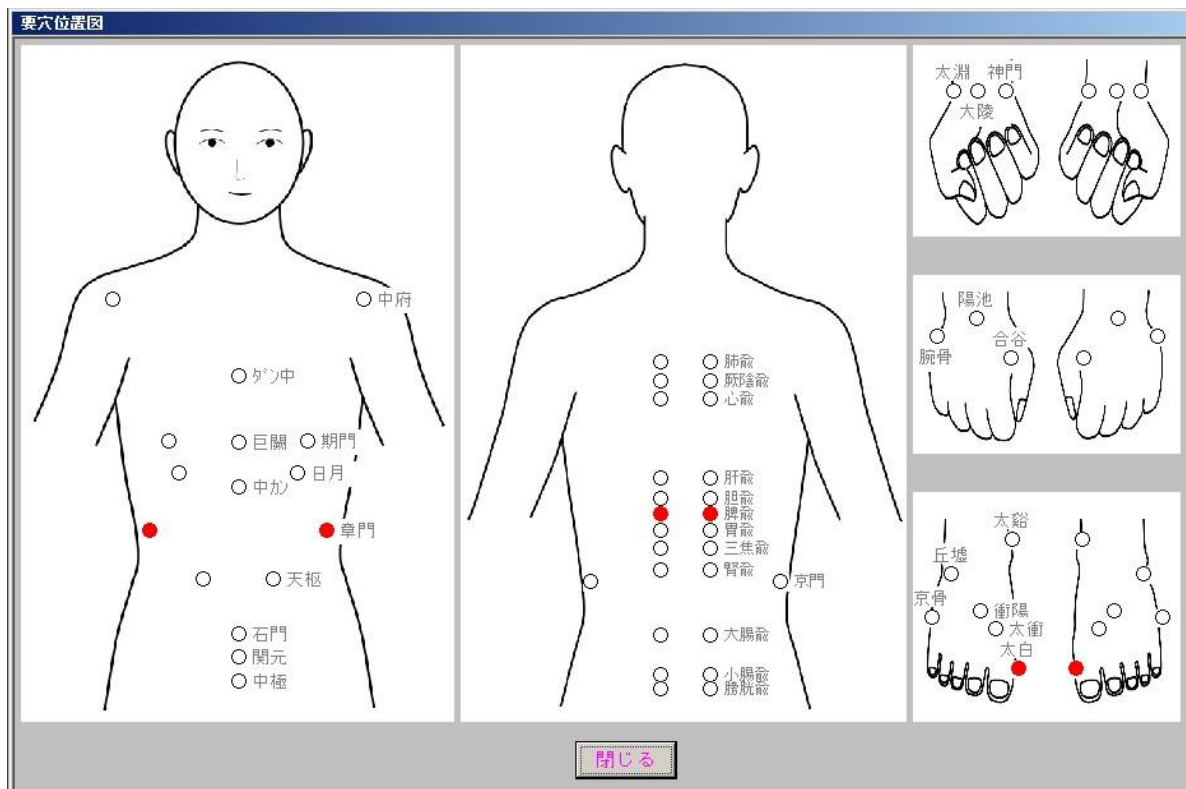


図 35

取穴の参考にしてください。



## 履歴

個人履歴表示印刷

番号	日付	氏名	備考1
0026	2015.03.28	013 FJ	
0027	2015.06.24	001 ME	
0029	2015.06.24	001 ME	
0030	2015.06.25	001 ME	
0031	2015.06.26	001 ME	
0039	2015.09.08	001 ME	
0050	2014.03.23	014 SK	AM ワーク前
0051	2014.03.23	014 SK	PM ワーク後
0052	2015.11.12	015 山田太郎	初回
0053	2011.12.08	001 ME	井の頭

選択した1人の測定履歴をピックアップします。

次へ 戻る

図 36

被検者名がコード番号順に表示されます。  
コード番号がない場合、先頭3文字の文字コード順に表示されます。

【次へ】

個人履歴表示印刷

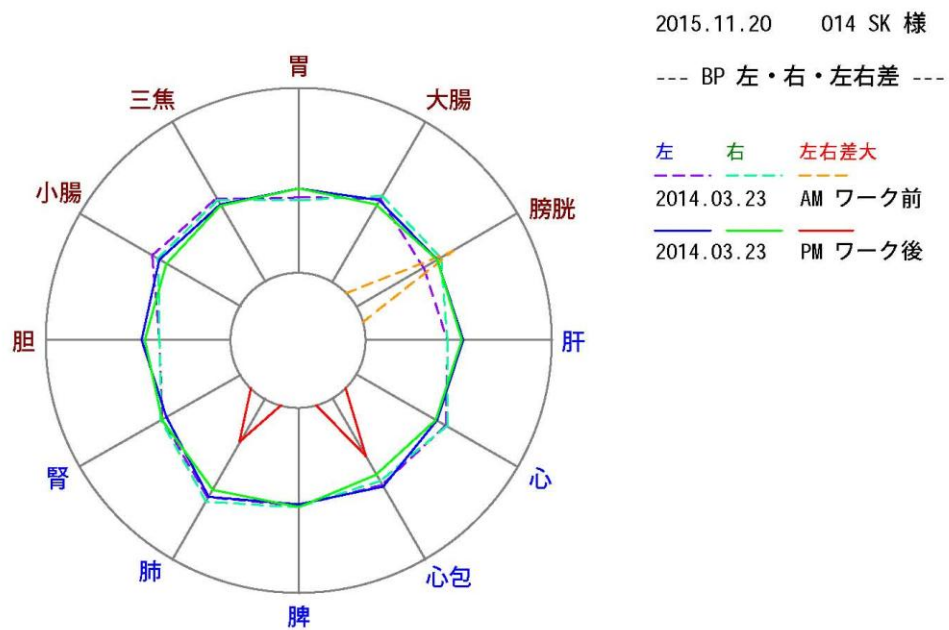
測定結果履歴チャート 014 SK 様

番号	日付	氏名	備考1
0050	2014.03.23	014 SK	AM ワーク前
0051	2014.03.23	014 SK	PM ワーク後
	.	.	
	.	.	
	.	.	
	.	.	
	.	.	
	.	.	
	.	.	
	.	.	

前々回 前回 最新 印刷 終了

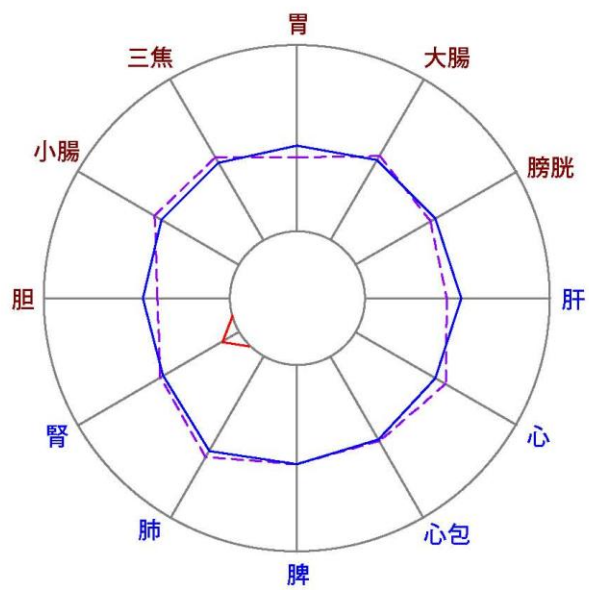
図 37

この画面例の場合、「0050」→「前回」→「0051」→「最新」とクリック操作すると、  
↓



--- BP 平均・逆転 ---

左右平均	陰陽逆転
2014.03.23 AM	ワーク前
2014.03.23 PM	ワーク後



2014.03.23 AM ワーク前  
2014.03.23 PM ワーク後

図 38

## メニューバーの処理



図 39

## 設定

### 表示設定

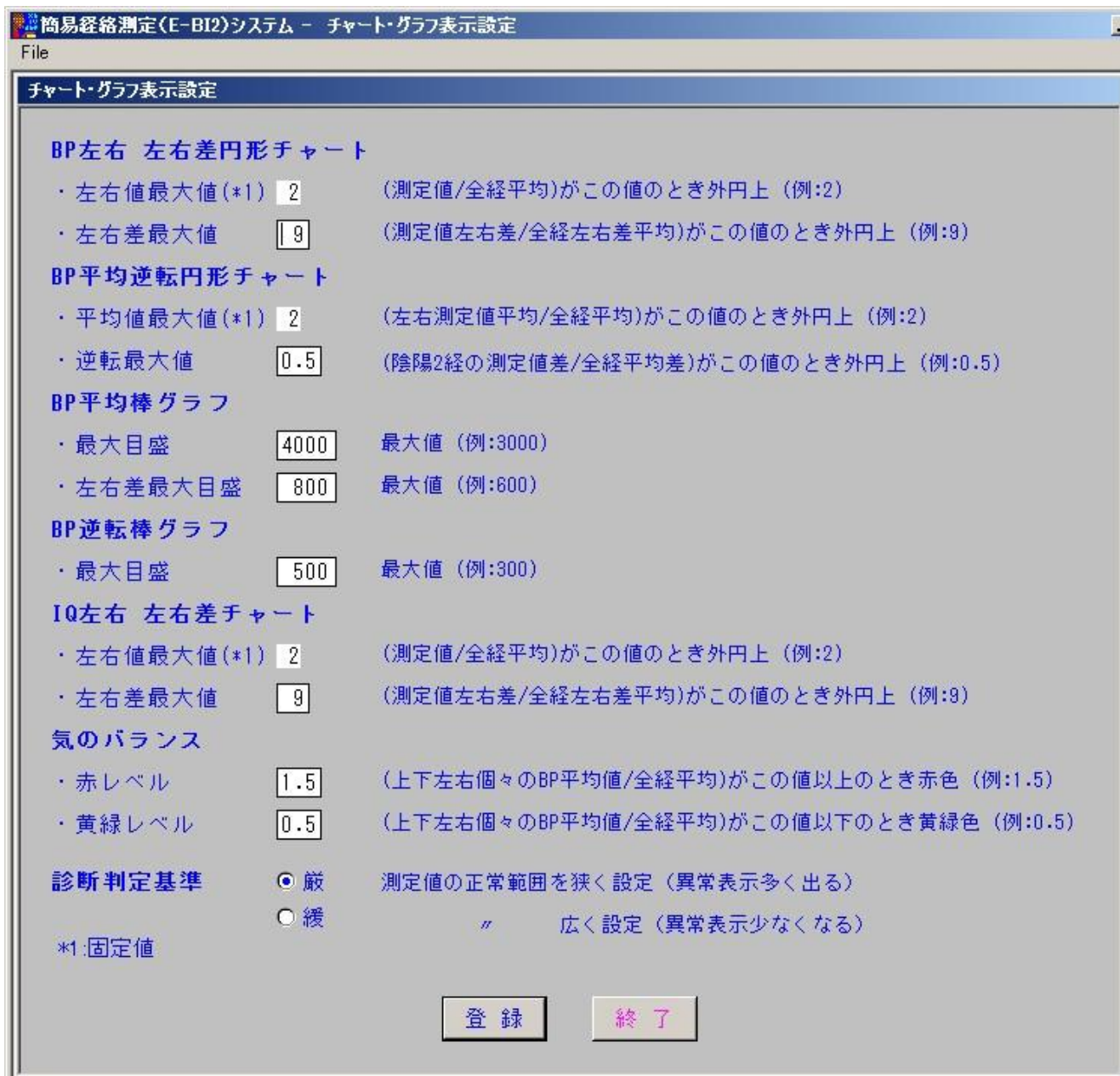


図 40

チャート・グラフ類の表示条件、異常判定の診断基準の設定画面です。  
診断判定基準は、表示・印刷チャート類 P.14～P.18/32 の「>」「★」「★」「◇」「△」「▽」等の表記条件に影響します。

## 補助

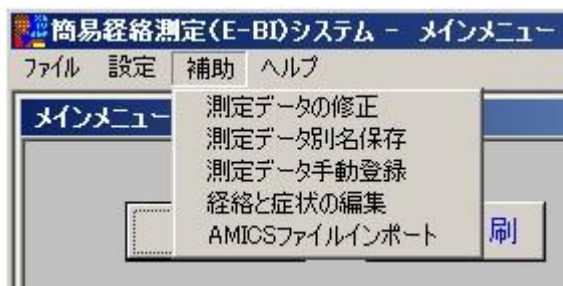


図 41

## 測定データの修正

測定データ AMIDATA.DBF の訂正 (氏名・備考のみ訂正可)							
番号	日付	時刻	氏名	備考1	備考2	備考3	BP2UA
0001	2014.02.25	11:51	002 TK			高山	2.898 0
0002	2014.04.13	08:06	001 ME				2.939 0
0003	2014.04.13	08:16	001 ME				2.934 0
0004	2014.04.13	15:42	001 ME	サイクリング, 飲食後	pm 15:40		2.925 0
0005	2014.04.15	08:17	001 ME				2.953 0
0006	2014.04.16	07:22	001 ME		二日酔い		3.029 0
0007	2014.04.16	07:27	001 ME		2回目		2.986 0
0008	2014.05.06	08:18	001 ME				2.934 0
0009	2014.07.30	07:18	001 ME				3.956 0
0010	2014.08.08	07:01	001 ME	FT02-1			3.964 0
0011	2014.10.17	15:07	001 ME				3.453 0
0012	2014.10.18	11:36	003 TK	女・34			3.492 0
0013	2014.10.18	11:53	004 T.Y	女・40代			3.492 0
0014	2014.10.18	12:20	005 H	男・50代			3.498 0
0015	2014.10.19	11:48	006 M.M	女・37			3.492 0

※項目訂正の後[↑]または[↓]すると登録されます。

1件消去 終了 [↑] [↓] [TAB] [SHIFT]+[TAB]

図 42

数値は変更できません。

## 測定データの別名保存

測定データ AMIDATA.DBF の別名保存 (氏名・備考を変更して保存できます)							
番号	日付	時刻	氏名	備考1	備考2	備考3	BP2UA
0001	2014.02.25	11:51	002 TK			高山	2.898 3
0002	2014.04.13	08:06	001 ME				2.939 3
0003	2014.04.13	08:16	001 ME				2.934 3
0004	2014.04.13	15:42	001 ME	サイクリング, 飲食後	pm 15:40		2.925 3
0005	2014.04.15	08:17	001 ME				2.953 3
0006	2014.04.16	07:22	001 ME		二日酔い		3.029 3
0007	2014.04.16	07:27	001 ME		2回目		2.986 3
0008	2014.05.06	08:18	001 ME				2.934 3
0009	2014.07.30	07:18	001 ME				3.956 3
0010	2014.08.08	07:01	001 ME	FT02-1			3.964 4
0011	2014.10.17	15:07	001 ME				3.453 4
0012	2014.10.18	11:36	003 TK	女・34			3.492 4
0013	2014.10.18	11:53	004 T.Y	女・40代			3.492 4
0014	2014.10.18	12:20	005 H	男・50代			3.498 4
0015	2014.10.19	11:48	006 M.M	女・37			3.492 4

※項目訂正の後[↑]または[↓]すると登録されます。

ファイル名 AMI151120.DBF 保存ファイル取出 終了 [↑] [↓] [TAB] [SHIFT]+[TAB]

図 43

「保存ファイル取出」を実行すると、現在の登録データが、¥E-BI2¥AMIyyymmdd.DBF(yyymmdd は年月日)として出力されます。

大切なデータファイルなので、USB メモリ等に転送してバックアップしておくといでしょう。

また、「保存ファイル取出」実行前に、この画面上で登録内容を訂正変更できます。

測定レポートとして提出する際に、氏名等を匿名に変更してください。

DBFファイルなので、MS-EXCEL 等で表示できます。

測定データの手動登録

測定データ手動登録

番号 0054

日付

氏名

備考

	BP-左	BP-右	IQ-左	IQ-右
肺経	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
大腸	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
心包	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
三焦	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
心経	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
小腸	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
脾経	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
肝経	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
胃経	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
胆経	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
腎経	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
膀胱	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

※「隔俞」と「八髻」は登録不要です。

登録

終了

文献等で公開された測定データをこの画面で登録し、本システムでチャート類を印刷表示できます。

図 44



## 経絡と症状の編集

**経絡と症状 DBF の編集**

「経絡の変調と症状」表示制御用データ [↑] [↓] [TAB] [SHIFT]+[TAB]

肺	大腸	胃	脾	心	小腸	膀胱	腎	心包	三焦	胆	肝	症状1	症状2	SORT
												右手痛(肺経沿)		1
+	+							+				喉がつまりやすい		2
+												息が苦しい		3
+	+	+										鼻づまり	喉が痛む	4
+	+	+							+			鼻血が出る		5
+	+											気管支が悪い	両足がもつれる(肺、大腸経沿いに)	6
			+	+			+	+	+		+	高血圧		7
	+				+	+	+					軽い腰痛		10
	+				+							右足痛	子宮筋腫の手術	11
	+				+							腹痛		12
+	+	+			+						+	胃腸が弱い		13
+					+							便秘		14
+					+	+	+					ギックリ腰	腰から背骨が曲がっている感じがする	15
+		+			+		+				+	太ももから膝が痛む		16
		+	+		+					+	+	胃炎		21

初期値は「経絡-臓器機能測定について」ほか(本山博 著 宗教心理出版)からの引用編集データです。  
「経絡の変調と症状」実行時、「+」位置に「⇒」が入り、1行ずつ「SORT」数字が小さい順にリストアップされます。  
利用環境に合わせてデータを追加・削除してください。  
行内文字を追加訂正した場合[↑]または[↓]するとファイルが更新されます(表示されただけでは更新されません)。

図 45

初期値は見本データなので、ユーザがご自分の流儀で書き換えてください。  
この内容のまま印刷チャートを他人に配布しないようにしてください。

## ヘルプ

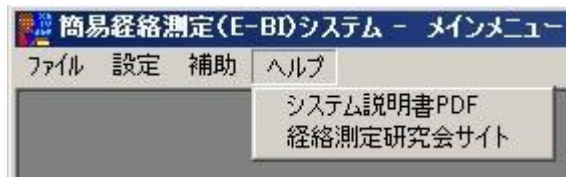


図 46

## システム説明書

システム説明書.PDF を表示します。

## 経絡測定研究会サイト

[http://nico2.info/ami\\_project/index.html](http://nico2.info/ami_project/index.html) にアクセスします。



## 測定準備

### 電源

本システムは、AC100V コンセントから電源を取ります。  
同室内で暖房用ヒータや他の電気器具を使用する場合、それらの機器の電源は、別のコンセントから取り、極力遠ざけてください。

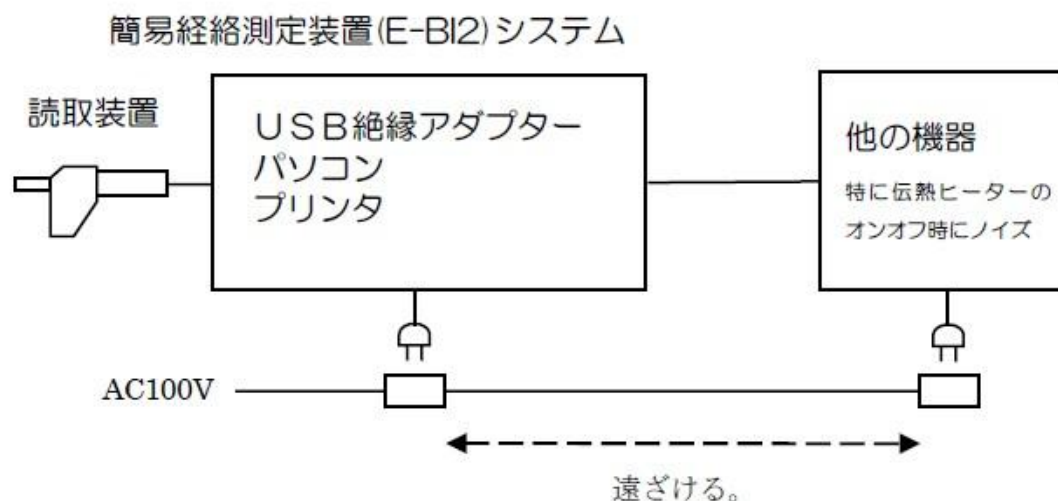


図 47

### 椅子とテーブル

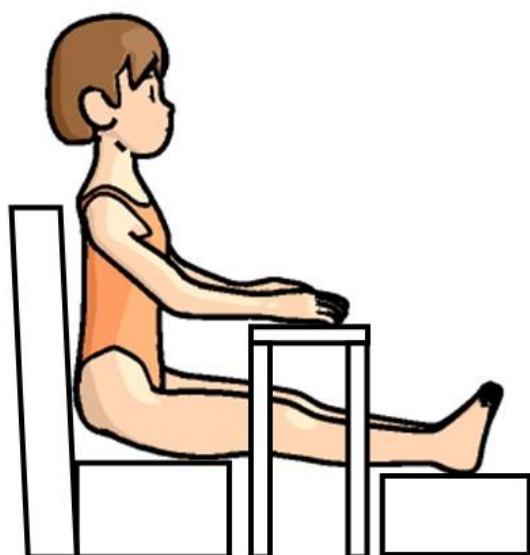


図 47

被検者にはこんな姿勢で座ってもらうのがよいでしょう。

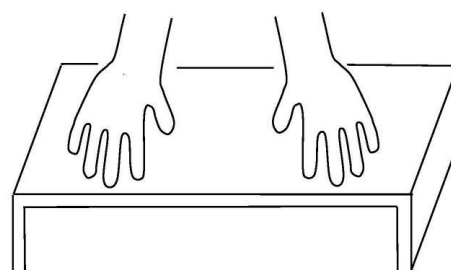


図 49

テーブルの上で手を開いてもらいます。

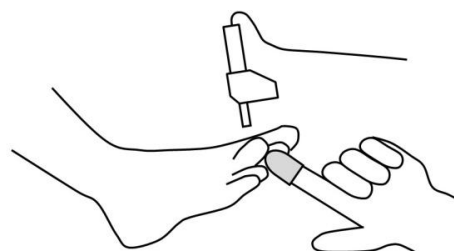


図 50

被検者の指が隣の指と密着していたら、両者を離して関電極を測定ポイントに当てます。  
このとき、検者の指が電流の導体にならないよう指サックを付けることを推奨します。

## 機器接続

### 通常接続

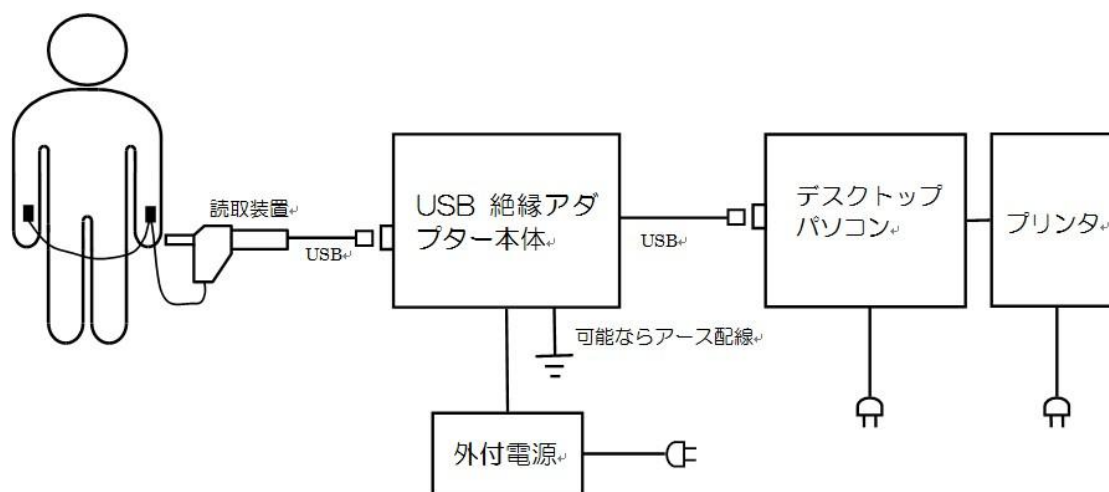


図 51

パソコンを AC100V電源に接続して、測定・印刷作業をする場合、このように接続します。



アダプター接続図  
図 52

(図 53 欠番)

次の表示は無視して構いません。

パソコンに読取装置を接続したとき、このように表示されることがありますが、そのまま閉じてください。

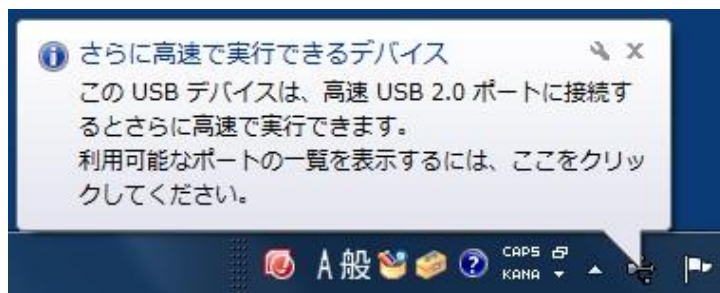


図 54

## ノート PC でバッテリー駆動の場合

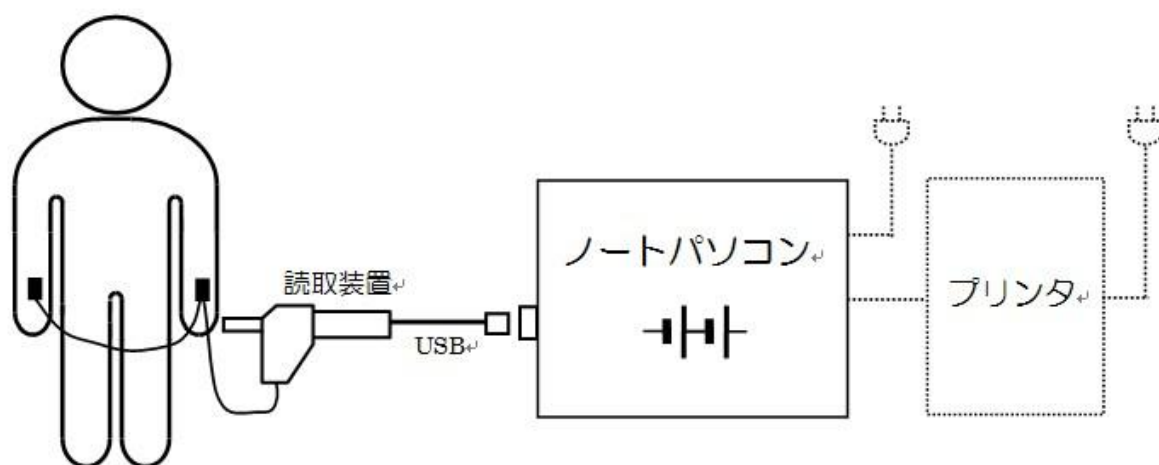


図 55

測定中、パソコンも(接続している場合はプリンタも)、AC 電源に接続しない場合、USB 絶縁アダプターは配置しなくても構いません。

(この構成は、AC 電源と USB 絶縁アダプターを使用する場合よりも、外来ノイズが少なく理想的です。)

不関電極の装着

## 不関電極の装着



図 56

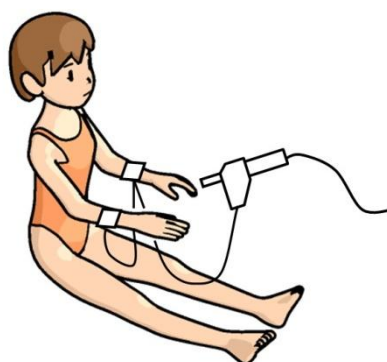


図 57

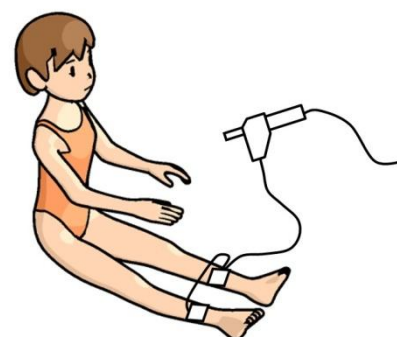


図 59

不関電極は、手首用または足首用の一方を使用します。

不関電極の金属面に、電極塗布用ゲル剤を薄く塗ってから、手首または足首に装着してください。



図 58



図 60

## 関電極のセット

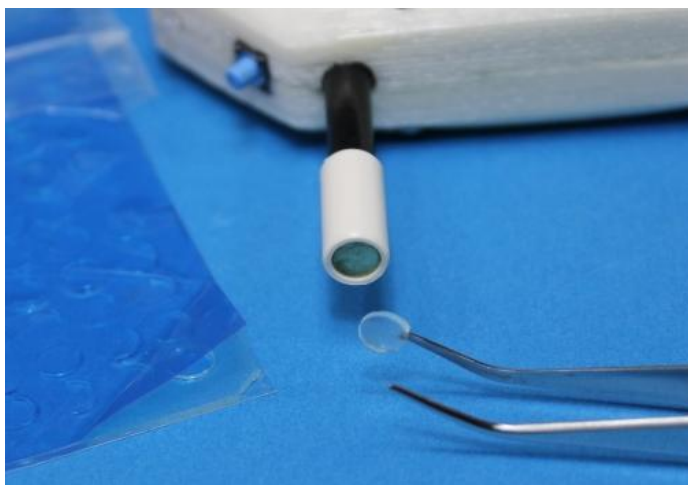


図 61

関電極の先端部は、ティッシュペーパー等で汚れをきれいに拭き取ってください。一枚のゲルシートから円形部 1 片をピンセットで剥がして、関電極の金属面に貼り付けてください。

このとき、金属面にもゲルシートの金属面側にも、指で触れないようにしてください。指で触れると油脂や汚れのためゲルシートが剥がれやすくなってしまいます。

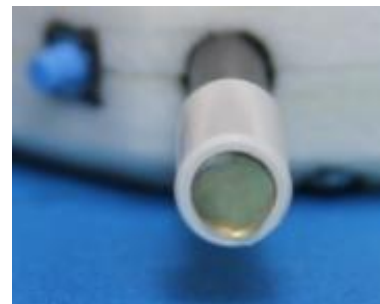


図 62

貼り付けた後、ゲルシート外面を皮膚に当てたり離したりして、ゲルシートが密着していることを確認してください。



図 63 ⇒

動画内 (A・BI) の関電極



図 64

現行 E-BI2 の読取装置一体型関電極

電極の取扱方法・測定作業の手順等の動画を YouTube にアップしています。

[http://nico2.info/ami\\_project/page01/index.html](http://nico2.info/ami_project/page01/index.html)

(動画のキャプションは旧表記「E・BI」になっています。)

## 測定

機器の接続を確認して、USB 絶縁アダプターの電源スイッチをオンしてください。  
読取装置の LED が緑(または青)色に点滅し始めます。

測定の際は目的の井穴ポイントに閥電極を当て読取ボタンを 4 秒程度押してください。  
約 3.5 秒後、装置が読取動作を 2 回実行します。

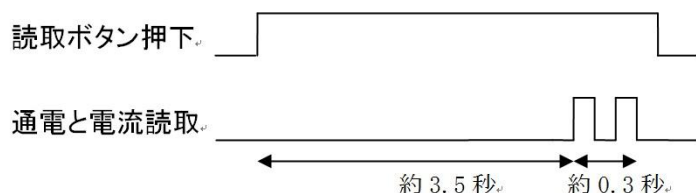


図 65

## プログラムの実行

インストールした E-BI2 経絡測定システム (E-BI2.EXE) を起動してください。

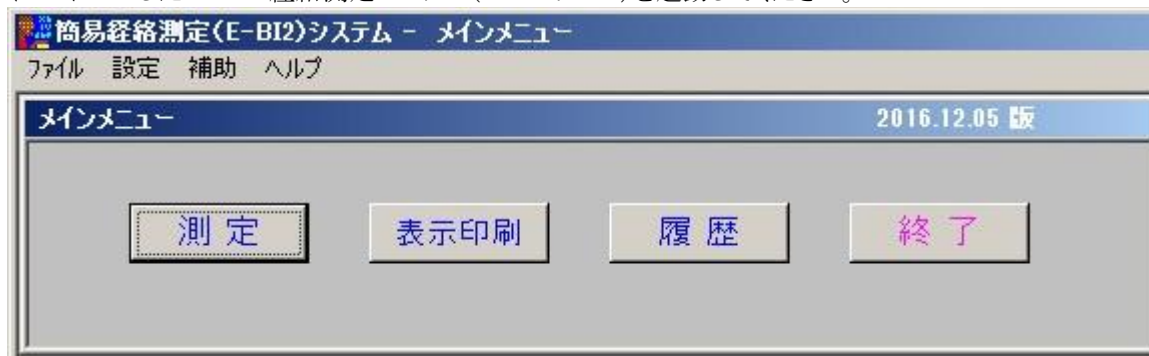


図 66

「E-BI2 経絡測定システム プログラム解説」(p.8～)を参照して、測定作業してください。

## 測定練習

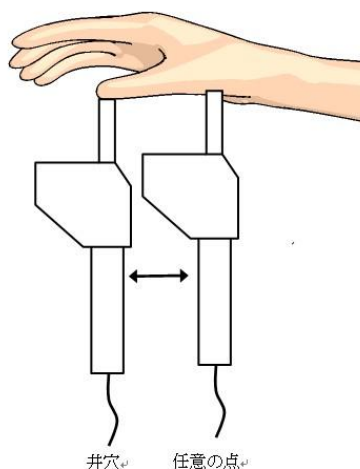


図 67

測定操作に慣れるまで、ぜひ測定練習してください。

測定画面 (p.9)) には、閥電極を当てるべき井穴が指示されますが、練習の際は、指示は無視してかまいません。

ご自分の手足の測定ポイント(井穴)や他の任意位置に閥電極を当て、読取ボタンを 4 秒以上押し続けます。  
すると、読取装置の LED が赤色で点滅し始めて通電電流が読み取られます。  
そして画面に測定値が表示されます。

このとき、閥電極を一定の圧力でブレることなく皮膚面に押し当てることが重要です。

24 回(手の 12 井穴、足の 12 井穴)読取操作すると、読み取り画面が終わってしまうので、途中でバック([←]または[→]キー)操作してください。  
また、いつでも、[CTRL]キーで作業を中止できます。



## ご注意

### 「測定開始」と「戻る」操作について —パソコンのフリーズを避けるために—

測定作業を開始する際、パソコン—USB 絶縁アダプター—読取装置が正しく接続され、USB 絶縁アダプターの電源がオンしている必要があります。また、そのとき読取装置の内蔵 LED(p.11 図-23 の②)が消灯していなければいけません。  
この状態で、測定・読取操作画面(図-)で「測定開始」をクリックすると、読取装置が起動されて内蔵 LED が点灯します。  
また、測定作業を終了する際は、上記画面の「戻る」をクリックすると、読取装置が機能停止して内蔵 LED が消灯します。

しかし、上記画面 [ESC]を押すと、「戻る」をクリックしなくても、プログラム全体が即座に終了しますが、読取装置の内蔵 LED は点灯したままになります。

この状態のまま、次の測定作業のために、「測定開始」をクリックすると、パソコンがフリーズしてしまいます。

「測定開始」する前に、読取装置の内蔵 LED は点灯していたら、パソコン—USB 絶縁アダプター間の USB コードを一旦外して再度差し込むか、USB 絶縁アダプターの電源スイッチを一旦オフしてオンし直してください。

もし、パソコンがフリーズしてしまった場合は、[Ctrl]+[Alt]+[Delete] → Arago Professional 6.5 for windows → タスクの終了という操作で、プログラムを強制終了してください。

#### 【更新履歴】

2016.12.19 「USB 絶縁アダプター」廃止し、「USB 絶縁アダプター(外付電源タイプ)」に交換。

2017.01.04 誤記訂正 2 箇所

2017.01.06 USB 絶縁アダプター写真差し替え

簡易経絡測定(E-BI2)システム説明書

〒214-0008

川崎市多摩区菅北浦 2-6-8-106

経絡測定研究会 神谷 博之

TEL 044-946-4384

FAX 044-946-4385

[http://nico2.info/ami\\_project/](http://nico2.info/ami_project/)